

平成26年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立翠星高等学校

No. 1

| 重点目標                            | 具体的取組   | 実現状況の達成度判断基準  | 判定 | 集計結果                               | 分析（成果と課題）及び来年度に向けて（改善策等）   |
|---------------------------------|---|---|----|------------------------------------|--|
| 1<br>地域の環境問題に積極的に関わる意欲と態度を育成する。 | ① ふるさと石川の「里山里海保全」の大切さについて理解を深めるために講演会、研究発表会等を実施する。  | 里山里海保全の大切さが理解できた生徒の割合は<br>A 90%以上<br>B 70%以上<br>C 50%以上<br>D 50%未満      | B  | 里山里海の大切さが理解できていると答えた生徒の割合は76%であった。 | 緑地デザインコース、生物科学コースを中心に、里山里海保全活動を行っている。しかし、学校全体として生徒の意識は低かった。今年度は全校生徒対象の講演会や発表会を開催した。その成果もあり、個々の生徒の里山里海保全への意識が高まったようである。来年度も、全校生徒対象の講演会、発表会等の取り組みを継続したい。 |
|                                 | ② 校内環境美化に積極的に取り組む。  | 校内の環境・美化に積極的に取り組んでいると答えた生徒が<br>A 90%以上<br>B 70%以上<br>C 50%以上<br>D 50%未満 |    |                                    |  |
| 学校関係者評価委員会の評価                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業を学ぶ上で、石川の里山里海の理解はとても大切である。発表会や講演会を通して学校全体で取り組んでいくことが大切である。</li> <li>・職場において、まず求められることは挨拶と整理・整頓や清掃である。掃除の仕方などは、高校の時にしっかりと指導しておくべきである。</li> </ul> |   |    |                                    |  |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内環境美化は、保健委員会の活動を活発化させ、生徒の意識を高める体制をつくりたい。</li> <li>・全校生徒への講演会や発表会を継続し、石川の里山里海への理解を深めるとともに、グリーンデザイン研究会等の里山保全活動を紹介する機会も持ちたい。</li> </ul>             |   |    |                                    |  |

平成26年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立翠星高等学校

No. 2

| 重点目標  | 具体的取組  | 実現状況の達成度判断基準  | 判定 | 集計結果                         | 分析（成果と課題）及び来年度に向けて（改善策等）   |   |                             |  |
|---|--|---|----|------------------------------|--|---|-----------------------------|--|
| 2 学習意欲の向上と基礎学力の定着を図るとともに、進路実現に向けてキャリア教育の充実・強化に取り組む。 | ① 10分間の朝学習（翠星タイム）を実施し、基礎学力等を身につける。   | 基礎学力を身につけることができたと思う生徒の割合が<br>A 90%以上<br>B 70%以上<br>C 50%以上<br>D 50%未満 | B  | 基礎学力が身についたと答えた生徒の割合は72%であった。 | 新たな業者テキストの導入して3年目を迎え、朝学習での指導が軌道に乗り、生徒の基礎学力向上に対する意識が高まった。来年度は、朝学習の各学年の年間計画の見直しを含めて、本校の基礎学力定着の3年間の指導の流れ確立を目指したい。 |   |                             |  |
|   | ② 生徒の授業評価や研究授業、互いの授業参観を通して、授業の工夫・改善を図り、「分かる授業」に積極的に取り組む。   | 授業が「分かりやすい」と満足している生徒の割合は<br>A 90%以上<br>B 70%以上<br>C 50%以上<br>D 50%未満  |    |                              |  | B | 授業が分かりやすいと答えた生徒の割合は73%であった。 | 学校として、年間2回2週間の授業研究週間を設定し、教員相互の互見授業を推進し、授業改善に取り組んでいる。その成果が表れてきているものと思われる。来年度は、さらに教職員の意識を高め、授業改革に取り組みたい。 |
|   | ③ 3年間を見通し、各年次に応じたキャリア教育を積極的に展開し、全員の進路実現に取り組む。  | 資格取得にチャレンジした生徒の総数が<br>A 400人以上<br>B 300人以上<br>C 200人以上<br>D 100人未満    |    |                              |  |   |                             |  |
| 学校関係者評価委員会の評価                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会に出てから必要とされる基礎的な学力は、朝学習に限らず、様々な学習場面で学ばせる必要がある。</li> <li>・ キャリア教育として、学校をあげて資格取得の奨励に取り組んだことは、生徒の職業意識を高める上でとても評価できる。</li> </ul>               |   |    |                              |  |   |                             |  |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 翠星タイム（朝学習）は、原点に戻って学習内容を精選し、基礎学力の向上に取り組みたい。</li> <li>・ 資格取得の奨励は、生徒の職業意識を高める上で成果があったと思われるため、来年度も継続したい。本校としての3年間のキャリア教育の流れを見直してみたい。</li> </ul> |   |    |                              |  |   |                             |  |

平成26年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立翠星高等学校

No. 3

| 重点目標                                    | 具体的取組   | 実現状況の達成度判断基準  | 判定 | 集計結果  | 分析(成果と課題)及び来年度に向けて(改善策等)   |
|---|---|---|----|---|--|
| 3 社会人として必要な生活習慣や規範意識、マナー等の向上に取り組む。      | ① 生徒が自発的に挨拶を行うように、授業や登校指導において挨拶の指導を行う。  | 自発的に大きな声で挨拶ができたと言った生徒の割合は<br>A 80%以上<br>B 70%以上<br>C 60%以上<br>D 60%未満 | B  | 自発的に大きな声で挨拶ができたと言った生徒の割合は74%であった。   | 昨年度に比べ、今年度は数字的にやや下がったが、数年来、生徒会は「マナー環境美化週間」を設定して、朝の挨拶運動を継続して行っている。その成果は少しずつ表れてきており、特に来客への挨拶は定着しつつある。しかし、まだ自発的な挨拶のためらいを持つ生徒も多く見られ、今後とも、学校あげての取り組みが必要である。               |
|   | ② 基本的な生活習慣の確立を目指し、遅刻や欠席者の減少に取り組む。   | 前年度に比べ、遅刻者の減少割合は<br>A 30%以上<br>B 20%以上<br>C 10%以上<br>D 10%未満          | D  | 昨年度に比べ、遅刻者の減少割合は9%と、わずかな減少であった。   | 年度比較では遅刻者の大幅な減少はないが、生徒指導課を中心に登校指導を行っている成果により、7月以降の遅刻者は、月を追うごとに少なくなってきた。来年度はクラス担任との連携は当然のことながら、保護者への協力を呼びかけ、学校全体として遅刻者の減少に向けて取り組みたい。                                  |
|   | ③ 交通安全指導の充実を目指し、教職員全員で登校指導に取り組む。  | 前年度に比べ、街頭指導を受けた生徒の減少割合は<br>A 30%以上<br>B 20%以上<br>C 10%以上<br>D 10%未満   | B  | 昨年度に比べ、指導を受けた生徒の割合は27%減少している。   | 生徒指導課を中心に登下校指導を行っており、その成果がでてきていると思われるが、数字的には、大変大きな指導件数である。そのため、来年度も、外部講師による交通安全講話等を通して、交通ルール遵守の必要性を生徒に訴えかけるとともに、日々の指導の充実を図りたい。                                       |
| 4 部活動など課外活動への積極的な参加を促し、活力のある学校づくりに取り組む。 | ① 講演会や研修会などを積極的に取り入れ、部や研究会活動の活性化に取り組む。  | 部や研究会活動などに積極的に活動する生徒の割合は<br>A 80%以上<br>B 70%以上<br>C 50%以上<br>D 50%未満  | B  | 部や研究会活動などに積極的に参加していると答えた生徒の割合は71%であった。                                    | 今年度で、生徒全員の部活動加入の取り組みを始めて3年目を迎える。その取り組みの成果が年を追って表れ、生徒の意識向上につながったと思われる。大会等での目立った成果はなかったが、放課後も部活動での活気のある生徒の姿が見られるようになってきた。  |
|   | ② 農業クラブ活動の活性化に取り組み、全国大会への出場者増加に取り組む。  | 農業クラブ全国大会への出場者は<br>A 16名以上<br>B 11名以上<br>C 6名以上<br>D 学校枠の5名のみ         | B  | 今年度、農業鑑定競技4名、プロジェクト発表部門9名の合計13名であった。全国大会での入賞はならなかったが、北信越ブロック大会では、最優秀に入った。 | 今年度の全国大会への出場者は農業鑑定競技4名、プロジェクト発表部門9名の合計13名の出場となった。これは、食品科学研究会が、数年来、計画的に研究に取り組んできた成果として表れたものである。来年度は、プロジェクト発表では、その他の研究会の強化を図るとともに、測量競技、意見発表も含めて、学校全体としての指導体制を確立していきたい。 |
| 学校関係者評価委員会の評価                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「遅刻をしない」「挨拶の励行」「笑顔」は社会に出てから最も大切なことである。その意味で、遅刻やマナーの指導はしっかりと行う必要がある。</li> <li>・農業クラブのプロジェクト発表部門の全国大会出場は評価できる。それら生徒の優れた活動を地域に知ってもらうことも大切である。地域への広報活動の方策を考えて欲しい。</li> </ul>  |   |    |   |  |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員全員の協力体制のもとに、日頃の規範意識、マナーの向上など基本的な生活指導に取り組む。</li> <li>・遅刻の指導は家庭に呼びかけを行い協力を仰ぐ中で学校全体として取り組みたい。</li> <li>・部活動への全員加入の指導を継続するとともに、各コースの研究会活動を活性化させ、生徒の放課後活動の充実を図りたい。</li> <li>・農業クラブ活動については意見発表やプロジェクトを計画的に進めるように努めたい。</li> </ul> |   |    |   |  |